小さな声に丁寧に耳を傾ける

2027年4月市議会議員選挙に向けて擁立決定

2期目に挑戦

たましょう 玉正さやか

八王子・生活者ネットワーク
市議会議員



子どもや若者、高齢者、障がいのある人など、一人ひとりが大切にされ、誰もが尊重される地域をつくるために、これまでの取り組みをさらに前に進めていきたい。その思いを胸に、2期目に挑戦します。

大事なことは市民が決める！

子どもが主役　すべての子どもがのびのび育つまちへ

- 自己肯定感を育み、一人ひとりの思いや個性が尊重される環境をつくる
- 社会的養護を経験した子ども・若者の暮らしを支える



ヤングケアラー出前講座



ケアに関わる方たちとの座談会

年を重ねても自分らしく暮らせるまちへ

- 医療やケア従事者の社会的・経済的地位を押し上げ　人材を確保する
- 移動支援や居住支援を進め、暮らしに必要な支えを保障する



障がいがある人もない人も共に暮らせるまちへ

- 障がい者の自己選択や決定を尊重する
- 就労に困難を抱える人も対等に働ける場と、働き方の選択肢を増やす



「地域で学ぶことは地域で生きること～人生を一本の幹に～」講演会



1年間の稲作体験

気候危機対策　みどりを守り、命を守る

- 原発ゼロ・エネルギーの地産地消をめざす
- 農地や農業を守り、地域の食と暮らしを豊かにする

平和憲法を守り、戦争のない社会をつくる

- 平和教育を推進し、戦争の記憶と平和の尊さを子どもたちにつなぐ
- 地域に残る戦争遺跡を保存し、戦争の記憶の継承をすすめる



浅川地下壕見学会

玉正さやか　プロフィール

1983　茨城県水戸市生まれ
2006　カリフォルニア州
　サンタモニカカレッジ卒業
　カリフォルニア州美容師
　免許を取得し美容室に勤務
2018～　生活クラブ生協 勤務
　（福祉事業に携わる）
2023～　八王子市議会議員選挙
　初当選
　文教経済委員
　国民健康保険運営協議会会長
2025～　厚生委員会
　まちづくり公社諮問委員
　表彰審査委員

- 西浅川町在住
- 趣味：刺繍、編み物、料理、韓国ドラマ鑑賞

玉正さやかのFB・インスタをチェック！

八王子・生活者ネットワーク　はつらつレポートNO.198（北版）2026年12月1日号　発行責任者：川合幸子
〒192－0066 八王子市本町3－4 TRYビル3階 ■TEL：042－623－8802 ■FAX：042－627－4507 ■メール：hachiouji-net@nifty.com

2026年第3回八王子市議会定例会
市議会レポート

質疑動画はこちらから➡



一般質問

若者が孤立しない地域づくり

思春期から青年期は、環境や人間関係が大きく変化し、悩みや不安を抱えても周囲に相談しにくく、孤立につながりやすい時期です。若者自身の選択や主体性を尊重し、自由に活動できる場や機会を支える「ユースワーク」の取組について質疑を行いました。

また、心や身体、性に関する悩みを気軽に相談できるユースクリニックの必要性を訴え、若者が利用する場で専門職に相談できる取組を提案しました。市からは、若者総合相談センターで保健師等と連携し、心や身体について相談や情報提供ができる機会を検討していくとの考えが示されました。

精神障がいがあっても地域で安心して暮らすために

精神障がいのある方にとって、就労や訓練を目的としない地域の居場所が重要です。手帳や受給者証がなくても利用できる場は、障害者総合支援法に位置づけられたものとして「地域活動支援センター」がありますが、現在市内には 3 か所に限られている状況です。

孤立を防ぎ、地域で暮らし続けるための大切な社会資源として、居場所の充実の必要性を訴えました。

市からは、精神障がいのある方の地域生活を支える環境の充実に努めていくとの答弁がありました。

2025 年度 決算等審査特別委員会

質疑動画はこちらから➡

▶総括質疑

住宅確保要配慮者への居住支援

賃貸住宅を必要とする方が増える一方、貸主側には入居後の生活や住宅管理への不安があります。こうした課題を背景に、昨年 10 月に住宅セーフティネット法が改正されました。昨年度は市営住宅や民間賃貸住宅など住まいの受け皿を広げるとともに、住宅部門と福祉部門の庁内連携を強化し、「居住サポート住宅＊」の取組を開始したことを確認しました。こうした取組を実際の支援につなげ、住まいに困ったときに選択肢があり、入居後も安心して暮らせる居住支援の充実を求めました。

＊見守りや生活相談、福祉サービスとの連携など、入居後も安心して暮らし続けるための支援が受けられる住宅。

▶決算に反対

日本遺産をはじめとする観光資源の活用、予防接種事業、地域通貨の活用、川口土地区画整理事業に反対。物価高騰が続き生活の不安が増す中で、産業振興や観光振興以上に社会保障の充実を方針として示し、市民の安心に繋がる事業にこそ限られた財源を使うべきであったとして 2025 年度決算認定に反対しました。

賛成多数で可決

意見書はこちらから⬇

米国産生鮮ジャガイモ輸入解禁を見合わせることを求める意見書

生活者ネットワークから、「米国産一般流通用生鮮ジャガイモの輸入解禁を見合わせることを求める意見書」を提出し、賛成多数で可決されました。

この意見書は、輸入解禁につながる植物防疫法省令の改正や関連手続きを中止し、国産ジャガイモの安定生産と国内農業の生産基盤を守り、食料安全保障を強化する政策への転換を国に求めるものです。

政府は現在、米国産生鮮ジャガイモを一般流通用として輸入するための手続きを進めています。生鮮ジャガイモは病害虫が国内に侵入・まん延するリスクもあることから、国内で生産できる食料について輸入依存を高めるのではなく、国内の農業と生産基盤を守ることを優先すべきです。

今回の意見書を一つのきっかけとして、農業と食を守り、将来にわたって国内で食料を生産できる環境を維持するために、地域から声を上げ、国の政策転換を求めていきます。



NPO フェスタにて